

## ■ 一般的な治療方法

治療方法は手術です。

手術の方法としては骨移植法と仮骨延長法があります。

伝達麻酔という神経に麻酔をして行うことも可能ですし、全身麻酔も可能です。

### ・骨移植法

延長したい骨の上の皮膚(足の甲)を切開し、骨切りをします。

骨切り部分を延長したい長さまで引き延ばし、腸骨など他の部分から骨のブロックを採取して、延長した部分のスペースに移植します。

長所としては一期的に骨延長が可能のため仮骨延長法に比較して、治療期間が短いことです。しかし短所として、骨採取の際に腰の皮膚を切開するため、外観を改善するための手術であるのに、短縮部以外に新たな傷跡ができてしまいます。また、延長量が多い場合に周囲の靭帯や腱を一部切離する必要があります。

### ・仮骨延長法(当科で行っている方法)

骨の創傷治癒機構を利用した、創外固定器を用いた骨の採取を必要としない治療方法です。

骨移植法と同様に延長したい骨上の皮膚(足の甲)を切開し、短縮した中足骨を切ります。

その後骨切りした骨の両側にピンを立てて創外固定器を装着します。

術後少しずつ骨折部の間隔を広げていくことで、延長しながらも、骨が形成されていきます。延長が早すぎると骨の形成が悪くなり、また、延長が遅すぎると延ばしている途中で骨がついてしまい、十分な延長が得られないため、治療者側の経験が必要です。

目標の長さまで骨延長し、形成された骨が十分な硬さに成熟するのを待ってから創外固定器・ピンを外します。

長所としては骨移植法のように骨採取の必要がないことで、短所としては治療期間が骨移植法に比較して長くなることです。

